ひろしまマイスター
福山市　谷口宜伸さん

■父の姿を見て，建築板金工になる

幼少より建築板金業をしていた父親を見て板金の面白さにはまり，高校卒業後，建築板金業を始めました。父は，妥協を許さない性格で，「見た瞬間に構造を理解しろ」と仕事を叩き込まれました。建築板金では，金属屋根や外壁，樋など取り付ける仕事が一般的で，建物の屋根と壁の取り合いの部分の役物（やくもの）などは，その場に合わせて切って曲げて組み合わせ，雨が入らないように，風が吹き込まないように加工して取り付けます。

機械加工や既製品が主流の中，平成16年に一級建築板金技能士資格を取得し，その後も練習を重ね，全国建築板金技能大会では，昔ながらの手作業で切って叩いて曲げる，0.1mmの精度で美観を追求する，簡単なようで難しいその魅力に連日連夜，練習に励み，見事優勝し，そして個人では厚生労働大臣賞を頂きました。

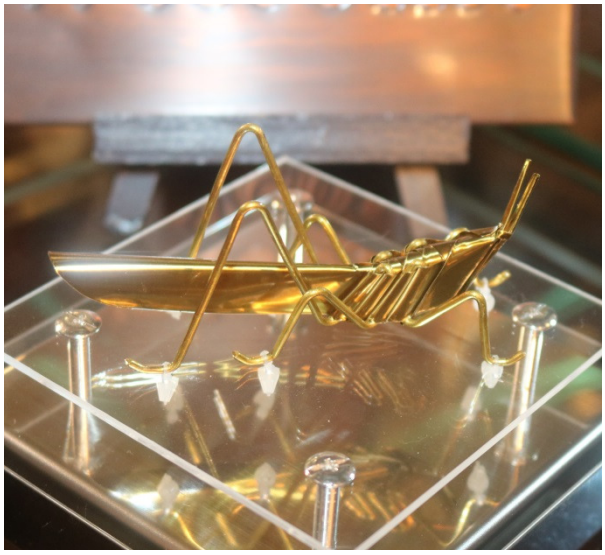
建築板金の技で作った銅製の天蓋。谷口さんがデザイン・制作。

銅製の雨樋。全て建築板金の伝統技法を駆使し手作業でつくる。

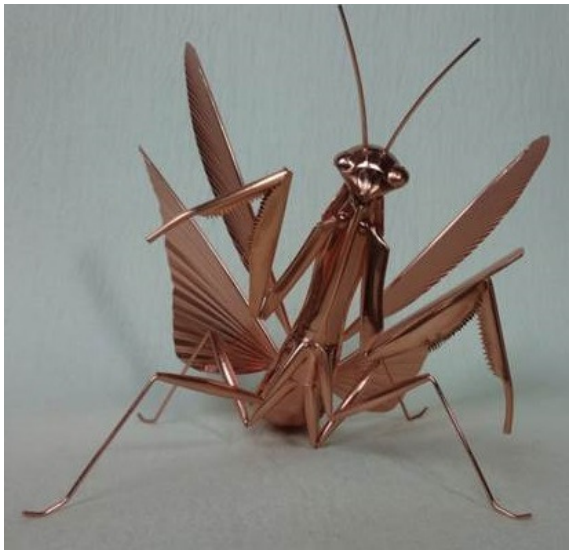
■何か新しいものは，作り出せないか。

きっかけは，旅行先の秋芳洞（山口県）で，露天商のおじさんが草バッタを鮮やかな手作業の技でパパッと作られていたんです。これを見た瞬間，見事な技と昆虫の面白さに触れ，大人から子供さんまで楽しんでもらえるのではないかと思い，銅板昆虫作りを始めました。

草バッタの制作は，20mm×365mmの銅板を半分に途中まで切込みを入れて編み込んでいく単純なものですが，左右の幅の違いや編みこむ力が均一でないと片方に引っ張られ体が寄れてしまいます。何体も何体も納得がいくまで制作した時に，バッタの体がトンボの体に見えてきました。そこからトンボ，チョウ，カマキリ，クワガタ，カブトムシと種類を増やしていきました。



真鍮製の草バッタ



今にも動き出しそうなカマキリ

■伝統技法で，より本物に

カマキリのお尻の体節には建築板金の社寺建築で多く使われる一文字葺きという技法を使い，蛇腹状に銅板を折り，綺麗な反りあがり曲線を出し，周りはハゼ組みという技術を使って形を成形しています。より昆虫本来の躍動感を出し銅板の良さを生かすため，試行錯誤した末，金属のたたき台の上に樹脂を均し，鏨（たがね）で打ち出すことで薄板の絞り打ち加工を考案しました。

今では，精度と複雑な造形が可能になり，関節なども可動する自在置物を制作しています。

リアルな銅製のセミ。約60パーツ組み合わせます。
製作期間は，約1か月。

■寺社の火除けのまじない銅蝉

昆虫を作り始めて3年目の頃，ご縁のあるお寺のご住職に昆虫を付けさせてほしいと相談したところ，蝉には木造建築の火除けのまじないの意味があるからと快く承諾してくださいました。今では全国各地のお寺に取り付けられ，さらに置物として一般家庭のインテリアとしても幅広く，お問い合わせいただいています。

建築板金の技能というのは，すごく簡単そうに，その場でパッと加工して付けてしまうことから，難しさが伝わりにくいので，そういう意味でも昆虫作りを始めました。子供たちがものづくりの楽しさのきっかけになってくれるとうれしいですね。

お寺に銅製のセミがとまっています。

ひろしまマイスターへ，5つの質問

Q1建築板金の魅力は？
　手に職があることで，銅板を加工して何でもできる。

Q2この仕事をして良かったことは？
　昆虫の作成を始めて，今まで会えなかった方と交流ができた。

Q3一番苦い思い出は？
　昆虫を作り続けて，10円ハゲができ，制作ペースを落としたこと。

Q4建築板金工の若い方へ伝えたいことは？
　毎日の積み重ねが大事！楽しさを知らないと上達はできない。

Q5ストレス解消法は？
　とにかく叩く（笑）

家族が思う「谷口さんのここがスゴイ！」

1　ひとつのことをずっと続けることができる忍耐力
2　達成へ強い意志をもって，探究するハングリー精神
3　人を喜ばせるサービス精神